

「県政タウンミーティング」会議録

テーマ 『新たな総合5か年計画「20年後の長野県を考えよう」』

サブテーマ

- ①長野県の誇る健康・長寿について
- ②長野県を支える産業について
- ③みんなが憧れる長野県での暮らしについて

日時 平成24年7月2日（月）午後5時30分から8時まで

場所 工科短期大学校 学生ホール

目次

2	ワールド・カフェ方式による意見交換	2
3	まとめ発表	2
	（1）長野県の誇る健康・長寿について テーブルC	2
	（2）長野県の誇る健康・長寿について テーブルD	3
	（3）長野県を支える産業について テーブルB	4
	（4）長野県を支える産業について テーブルD	5
	（5）長野県を支える産業について テーブルA	6
	（6）みんなが憧れる長野県での暮らしについて テーブルB	7
	（7）みんなが憧れる長野県での暮らしについて テーブルC	7
4	知事あいさつ	8

1 知事あいさつ

【長野県知事 阿部守一】

皆さん、こんにちは。今日は暑い中、大勢の皆さんにタウンミーティングということでお集まりいただきました。本当にありがとうございます。

今日は20年後の長野県を考えるということで、今、長野県は、新しい中期総合計画を作っている途中でありまして、県内各地域を私も回らせていただいて、20年後の長野県、どういう県にしたいかなということを皆さんと一緒に考えて、皆さんのお知恵をお借りしてきているという状況です。

今日の進め方は、先ほど話があったとおり、前向きにそれぞれのテーブルで、議論ではなくて話し合いをしていただければと思います。何度かやってきた中で、皆さんに私の方からお願いはですね。長野県は今、計画策定途中でありますので、皆さんが本当に20年後にどうありたいかな、どういう長野県になっていたらいいなということを、それぞれのテーブルでクリアにしていただいただけるとありがたいなと思います。20年後って分からないですよ。私もいろいろな所で、20年後なんかそんなもの分かるわけじゃないかって怒られることもあるのですけれども、私もそうだと思います。今から20年を振り返って、ちょうどバブルの後、20年後どうなるであろうというのは、なかなか見通せない部分が多いと思いますけれども、ただ、私は世の中っていうのは、特に人間の社会は、一人ひとりの意志が集まって進化していくわけですから、長野県の皆さんが、こういう地域にしよう、こういう社会になるんだと強く思えば、必ずそっちの方向に、ちょっとブレはあると思いますがけれども、必ずそっちの方向に行くと思いますし、私はそういうふうにしていかなければいけないと思っていますので、是非こうしたいと強く皆さんの意思を出していただきたいというのが一つです。

それから、我々も大勢の皆さんに話を伺って、意見を聞いてきていますので、キーワードはこれだっというのをはっきり出していただく和我々これから県庁の中でも議論するのに非常にありがたい。一般的に、お年寄りが元気でこうだあだと言われちゃうと、大勢の皆さんの意見を集約するのって結構難しくなっちゃうんで、何はなくとも、認知症をなくそうとかですね、何でもいいですから我々に対しての投げかけとしてのキーワードはこれだぞというのを出していただけると、これは我々の勝手なお願いですが、私としては、非常にこれから取りまとめていくうえではやりやすいなと思います。

あとは、それぞれの分野で日ごろからお考えになっていることもいっぱいあられる方もありますので、そういう皆さんは、イメージの20年後じゃなくて、県として知事もいるんだから具体的にこういう政策をやれという、非常に具体的な話でも逆に結構ですので、ちょっと私がいろいろ言い過ぎちゃうとあれですけども、いろんなところでやってきていて、私も一緒に議論をさせてもらって、皆さんから提案を受けたりするときに、そういう形でやっていただけると大変ありがたいなと思います。

思いを強く出してもらいたいということと、キーワードを是非入れてほしい、それから個別具体的な話でいいですからこういう政策は必要だ、やれということであればそういうふうに出してもらいたい。そういうことをお願いして、皆さん楽しい前向きな話し合いの場にしていただくことをお願いをして、私の冒頭のあいさつといたします。よろしく願いいたします。

2 ワールド・カフェ方式による意見交換

サブテーマごとに3つのグループに別れ、さらに各グループ内で6名前後のテーブルに別れて意見交換を行いました。

参加者のご意見等については、別に「ご意見の概要等」や「ご意見の反映状況」として公表しますので、そちらをご覧ください。

3 まとめ発表

各グループから、くじ引きで2テーブルずつ発表テーブルを決定し、該当テーブルから発表者1名が意見交換の内容を発表しました。

そのほかのテーブルについては、補足意見があれば発言してもらいました。

(1) 長野県の誇る健康・長寿について テーブルC

長寿と健康について話をしました。皆さんの意見を要約する形なんですけど、一番は長寿と健康という部分で政策をやっていくためには専門職の連携が大事なんじゃないかなというふうに言っていました。各分野の専門職の人がただ自分の専門分野でやるんじゃないなくて、横のつながりとしてやっていくというのが非常に大事なんじゃないかなということです。まずは、健康長寿において予防が最重要んじゃないかなという意見が出ました。予防といってもいろんな予防があるんですけど、自分たちのグループでは、栄養士さん、看護師さん、歯科衛生士さんたちがいました。薬剤師の方もいました。予防の部分では、薬剤師さんが言っていたんですけど、薬があり過ぎだということで、自分に合った薬が1、2個あれば、お金も無駄に使わずに済むんじゃないかと言っていましたし、歯科衛生士さんちょっと忘れちゃったんですけど、「8020（ハチマルニイマル）」というものがあるようで、80歳になっても自分の歯20本で食を楽しもうとか日本酒を飲もうとか、そういう政策みたいな取組らしいんですけど、そういった部分での要望だったりとか。食というのは、健康とか長寿の栄養素んじゃないかなとおっしゃっていて、自分の歯で食べられるというのは、やっぱり幸せなことじゃないかなみたいなこともおっしゃっていました。

あとは、農地が荒らされているという話がありました。TPPだったりとか、そういったことがあって、農業をやる人が少なくなるということも言っていました。自然といえば、長野の強みだと思うので、それを担えるような人がいないと、やっぱり長野としてもだめんじゃないかという意見もありました。専門職の連携があつてのことだとおっしゃっていたんですけど、やっぱり何をやるにも、県の政策というのが、申し訳ないんですけど、しっかりしていないとだめだと思うんですよ。県だけじゃなくて、国もしっかりしていないといけないはずだと思います。

税金の話も、ただ上げるということを言っているだけで、じゃあ具体的にどこに財源があつて、充てられているのかというのものはっきりしないという点で、国民もやっぱり協力しないんだと思います。そこを本当にはっきりさ

せることによって、協力してもいいかという国民も増えてくると思うので、そういった行政の考えっていうのもクリーンに、クリアにしていただかないとということだと思います。

健康といったら、小さな頃から教育が充実していなければいけないという話もありました。今、情報社会になっていて、いろいろな情報があります。その取舍選択という面でもやはり教育が大事なのではないかということも言っていました。そういった行政があって、その上に専門職の人たちがいて、市民がいて、ということだと思いますので、そういった体制をしっかり作った上で、やっていけるのではないかなあということだと思います。高齢者の就業率も1位らしいのですけれども、そのわりには所得が全然、270万円、全国で13位という話なので、仕事をする場もやはりしっかりと作っていただきたいなあということだと思います。

高齢者の仕事の間だけではなくて、自分も障害者なのですけれども、実際仕事の面ですごく悩んでいる状態で、やはり公的サービスというのを職場に、身体介助だったら、身体介助を職場介助としてやればいいのではと思ったのですけれども、公的サービスは使ってはいけないという変なルールもあるので、そういった面を長野県でやっていただくことで、仕事というのは生きがいだと思うので、精神的なゆとりがあることで、長寿であるとか健康面だったりとか、いろいろな要素が健康であるとか長寿とかを支えていると思うので、是非そのあたりをやっていただければなあと思っています。

(2) 長野県の誇る健康・長寿について テーブルD

私たちのテーブルでは、やはり具体的なということよりもすごく基本的なことが大事なのだなというのが出てまいりまして、人とのつながりがあるとか、支え合うということが一番のキーワードにあがっていた方がとても多かったです。

いろいろな問題があるのですけれども、いろいろ考えたり、意見が出た中で、とどのつまりはやはり教育が大事なのではないかなということが出ました。教育というのは、例えば国語ができるとか算数ができるとかいう教育も確かに大事なのですけれども、もっと基本的な部分、人間として支え合っていこうとか、お互いを思いやろうというところが、すごくこれから、いろいろな人を支えたりとか、コミュニティーを発展させていくという上では、すごく大事な部分というふうに感じました。やはり行政ばかりを頼ってはいられないというところもありますので、どうしたらいいかといったら、コミュニティーを使ってお互いが、小さな子からお年寄りまで足りないところを補い合う、自分の得意な分野をみんなに提供していくということを構築していくには、足りないところを、そこできないじゃないかというのではなくて、ここが得意なのでこの人にはここを頼ろうよ、ここができないところはじゃあ私が補いましょうといった気付き合いができないとコミュニティーも発展していきませんし。

あとは、救急医療の充実というところもあったのですけれども、いろいろな医療従事者とか医療関係者がいると思うのですね。医師からはじまって、看護職であったりとか、介護の世界の人ですとか、いろいろな分野があると思うのですけれども、そこもお互いに足りないところ、得意分野を出していくというところと、あとは柔軟な耳を持つということでしょうかね。皆さんそれぞれポリシーがあって、それぞれの、例えば医師の中でもいろいろ

な科があって、得意とする分野があると思うんですけれども、そこを私はこれだからこれ以外できないというのではなくて、もっとお互い地域の皆さんにいい医療を提供するですか、誰が一番困っているのか、その人たちをどうやって助けたいのかということをもっと柔軟な態度でお互い意見出し合って歩み寄っていくには、やはりとどのつまり、その子どもたちの教育というところにつながるのではないかとというふうに出ました。

一つ大事なところで、やはりみんなお金のために働いているわけではなくて、自分が対象とする皆さんによりよく社会に存在してほしいという目的でお仕事されていると思うんですけれども、でもその人たちも生活をしているという点では、具体的には、介護福祉士さんであるとか保育士さんが足りない。いったん就職するんですけれども離職してしまうというところを見ると、一つには待遇の悪さ、すごく今求められているはずなのに、それにある程度見合ったもの、すごく満足のいくものというのは、なかなかどの職種でもお給料として見返りはないと思うんですけれども、やはりある程度生活ができて、よし頑張るぞと思えるようなレベルでないと、実際的には苦しいし大変だし、辞めていこうというふうに、その先につながっていきませんし、その分野を発展させていこうと思ったら、短期でどんどん人が変わってしまったら、展開とか発展させていくということもなかなか土壌として培えないと思うので、そういった部分の行政としての何か取組を考えていただけると、もっともこの先必要になってくる分野ですので、そのところを考えていただけるとありがたいなというふうに、そんな話も出ました。

(3) 長野県を支える産業について テーブルB

20年後の長野県のあるべき姿ということで、私たちも、一言で言うと教育というところにたどり着きました。かつては長野県は寺子屋の数が多くて教育県と言われていたんだと思います。これからは量的なものではなくて、質的な面で教育県と言われるぐらい教育に力を入れてはどうかと思います。産業の素地づくりのための教育ということで、農業ですとか、当然、今、長野県の産業の中で一番、産業を支えているというか、製造業、ものづくりから全てをその教育の中に含めております。教育と一言で言いますが、先ほどもお話出しましたがけれども、今の学校教育とはまたちょっと違う教育になりまして、具体的に、徴兵制度ではなくて、徴農制度、あるいは製造業・ものづくりも含めるので、その言葉が適切かどうか分からないんですが、ある程度強制力を持たせて、電波の届かない地域、長野県は山間地ですのであちこち作れると思うんですね。あえて時代と逆行するかなのような話なんですけど、携帯とかそういう電波の届かない地域で、あえてそういう教育をしたらどうかという意見が出てまいりました。

そもそも教育というところにたどり着いたのは、20年後の長野県のあるべき姿を考えた時に、やはり今のこれから生まれてくるお子さんですとか、これからの子どもたちが20年後の長野県を引っ張っていく方々になってくると思います。私も当然自分の道を模索しているところなんですけれども、それを考えた時に、今、これからの子どもたちに生きる力をつけてもらいたいなと思いました。その生きる力というのが、自分で田植えから、米作りができる、一人ひとりが米作りができる。それは遊休地が沢山ありますから、何もしがらみを考えなくていいということだったんで、例えば県が全部管理して、それを貸し出すこともつながるのではないかと。荒地をそのままにして

おくとだめになるところが、米を作れる人が増えることで、自分の食べ物を自分で作るということにもつながるのではないかと思います。

自分から、必要な情報を中心に、必要なものを取りに行く姿勢というのが、やはり電波の届かないようなところで教育をしていかないと、どうも情報に満たされている昨今ですので、非常にそういう貪欲なというか子どもも育たないのではないかとということでそんなことを考えました。その人材教育が進んだところで先ほどチームというかテーブルの中で意見が出たんですけども、長野県の良さを外から再発見するという知事さんのご意見があったということで、非常にそれに感銘を受けましてそれを海外との人材交流という形で県外も大切だと思うんですが、長野県内で育てた子どもたちが海外のいろんな国の方々と人材交流できる、そういう仕組みを作ってはどうかと考えました。アイデアは別になんでもいいということだったので、こんなことを申し上げています。

それで障害となることとかは、そもそも今の教育制度が障害だということ、いろんなところから問題になってしまいますので、そうではなくて長野県独自の教育制度としてそういったものも取り入れてはどうかというふうに思いますけれども、もっと民間の技術者であったり、それこそご年配の方、わたしの父は65歳で今、家にいるんですが、いろいろと経験しているんですけども、大変暇しているんですね。それで家に帰ったときに、何が生きがいなのと聞いたら、公民館長になったことが生きがいだと言っていて、公民館長って、たいしたお金をもらってというものではないんですがやっぱり働く場というか自分の活躍する場というのを年配の方も求めているのではないかと思いますので、是非そういう教育の場づくりで、いろんな世代を超えた方々の知恵を持ち寄るというのが、すごく大切かなというふうに思います。

最後に、やはり情報の共有と情報の発信の仕方というのは課題になってくると思いますので、その辺を県の皆さんに考えていただけたらと、よろしくお願ひします。

(4) 長野県を支える産業について テーブルD

20年後のあるべき姿のキーワードですけれども、今のBチームの方と同じようなことが出たんですけれども、豊かさが実感できる、農業をやられている方が多かったので農業の推進。豊かなゆとりのある長野県だったりとか、宝の持ち腐れから宝の持ち徳。長野県って、いろんな資源、いい資源が沢山あると思うんですけれども、それに気づいていない子どもや人々がもっともっと長野県の良さを知ってもらえるようなことです。長野県の良さでお金を稼ぐ。やはり産業を進めていくためにはお金がなくては成り立っていきませんので、良さを活かしながらお金が稼げる仕組みができるといいということです。

工夫やアイデアですけれども、長野県は気候や風土がとてもいいですので、それを活かした農業の場合ですと、特に果樹をもうちょっと力を入れて導入していけばいいのではないかと意見が出ました。地域資源を感じる感性を育てるにはやっぱり教育が必要ということ。伝統文化、いろんな伝統産業がありますよね。それを再発見できるような場づくり。

今あるものを変えていく。変えていくことって大事で力になる。大変な部分でもあるけれども、今あるものを変えていかなくてはいけない。単なる農業とか林業とか製造業に、例えば教育ですとか、環境、長野県は生物多様性

でもすごくホットスポットになっていますので、そういう環境の部分とか、観光をプラスしてそれが新たな産業とか豊かな生活やゆとりある生活になるといいなあということです。長野県では水、土、太陽、光とか、人っていうのも変えていく力になるということです。

地域資源を生かす仕組みづくり、それはまだ具体的には出てないんですけども経済的な裏打ちがある仕組みが必要かなというところなんです。

課題ですけれども、いろんなところで人材教育とか出ていますけど、やっぱり教育がすごく重要だけれども、教育には教育委員会とか文科省とかいろんな壁がありますけれども、長野県独自の長野県を変えていってくれるような子どもの教育ができる何かがあるといいなと思いました。いろんな情報を回す仕組みですとか、幸せを実現する技術、場所、機会。幸せというのは目標なんですけど、それをどこに求めるのか。それは長野県でそういう場を提供してもらえるのか、それとも民間でそういう場所があればそういうところでやっていけるんじゃないかということです。ちょっと取り留めのないですけどもそんなようなことが出ました。

(5) 長野県を支える産業について テーブルA

20年後の長野県のビジョンということで、世界にこの長野県の良さを発信できる信州人を育てようということをキーワードに話しました。それはやっぱり人材ビジョンですね。やはり僕らは農業、工業、福祉どれも産業だと思います。その産業も、これからまた別な新しい産業を生み出す人材をこれから僕らは作っていかなくてはいけないのかなと思います。それは僕らのような30代の者であったりとか、今50代60代の意識のある方たちがこれから若い子どもたちにちゃんと教えるような仕組みをつくっていくところが必要なのかなというふうに感じております。

この20年後あるべき姿のアイデアというところなんですけれども、そうは言っても、その信州の良さとかってなかなかこの内輪ではなかなか伝わらない、分らないのかなというふうに感じます。実際に私も外に10年間出て、初めてこの信州の良さ、自分の家の良さということを感じて戻ってまいりました。そういったところで、外に出て学ぶ仕組み、これは県外、留学制度を義務づけるとか一旦外に出て私たち信州の良さを改めて感じる仕組みというものを作ってもいいのではないかという意見が出ました。最終的にはお客様に感動・喜びを与えられるというものは何かというような、教育というところをしっかりとしていくべきではないかと感じました。

それで、このアイデアを実行するための障害となるところというところで、学生さんから出たんですけども、そうは言っても、小学校・中学校の時に農業体験ですとか、工業体験というものをしていかなければ魅力って伝わらないんじゃないかということでした。これがいいですよ、あれがいいですよという上辺だけの学習ではなく、ちゃんと自分たちが田植えからちゃんと苗を育てて、苗を植える。そして穂が育って、収穫して、それを食べるというような一連の流れの喜びというものを伝えられれば、将来、「俺こういうことをやったな。もしかしたら農業って面白いかな。」と思って産業に入ってもらえるような仕組みができるのではないかなと考えております。

子どもたちが「この産業ってかっこいいな」と思わなければ、なかなか就いていただけないかなと思います。そういったところで、僕らの産業ってどの産業もかっこいいなって思えるような仕組みをこれからできればなとい

うふうに思っております。すいません、夢のような話ばかりをしてしまいましたが、以上です。

(6) みんなが憧れる長野県での暮らしについて テーブルB

みんなが憧れる長野県での暮らしについてということで、何に憧れるのかなというような話で、やっぱり長野県は美しい自然とそれと都会への近さですか、東京でも関西方面にでも近い位置にある、また仕事が最近ちょっと陰りがありますが、仕事があって、水や空気がきれいで、暮らしやすいところがあるところがやっぱり魅力なんじゃないかというふうに出ました。

それで、20年後の長野県のあるべき姿に関してですけれども、キーワードというほど短くないですけれども、「太陽光や水力等の自然エネルギーを利用してお金がなくても豊かに暮らせる長野県」、もう一つが農業なんですけれども、「担い手もお年寄りも力を合わせて譲り合い、美しい農地を維持し、いつまでも働ける長野県」という2つをキーワードにしました。

20年後のあるべき姿に近づくためのアイデアということで、いくつか出ています。これは今のキーワードの中にもありましたけれども、太陽光発電や小水力発電をやっていく。それから農地を集積し、担い手を確保し、なおかつ退職者がまあ退職者だけではないですけど、自由に農業をできるような地域にする。また、子どもを育てる環境として、保育から高等教育、大学ぐらいまで低コストで行えるような長野県になればいいなと。また、保育あるいは小学校ぐらいの時には動物と触れ合える、今も、うさぎを飼ったりしていますけど、もっと身近に動物と触れ合うことによって、アレルギーやなんかをなくすというか緩和することができるという話が出ました。

障害となることや今後解決しなければならない問題、比較的大きな障害はないんじゃないかなと。すぐにできるんじゃないかなと思うんですけど、強いて言うならば、規制や後は個人の我欲がもう少しなくなってくれば、本当に素晴らしい長野県になるかなと思いました。それをするには、規制の方は行政の方で、我欲をなくすのは教育の方でやっていければ、わりと簡単に実現できるんじゃないかなと思いました。

(7) みんなが憧れる長野県での暮らしについて テーブルC

テーマはみんなが憧れる長野県での暮らしについてでしたが、テーマを忘れてしゃべってしまいました。みんな長野県の豊かさとか資源についての話がほとんどでした。資源はとても豊かですよ。農業もできるし、林業もあるし、畜産もあるし、あと自然エネルギーもたくさんできるはずですよ。でも、畜産・農業・林業を続けるのが苦しいのはなぜでしょうか。

私たちは東京での暮らしのようなあぁいった暮らしを求めてしまって、なんかこのたくさんある資源を本当に大切にしてくださるのかという反省からまず話が始まりました。

例えば、牛や豚や山羊が昔は暮らしの中に入り込んできていました。今は犬とか猫ぐらいかもしれないですけど、昔は家畜を飼っていましたよね。それによって人は免疫力が高かったそうです。現代人よりもずっと免疫力が高かった。でも今は、子どもたちはアレルギーとかに悩まされて、何が変わってしまったのだろうか、やっぱり暮らし方かなという話が出ました。

何でこのたくさんある資源をもっと活かさないのだろうかという話に入る

前に、もう活かしている人たちが私たちのグループにはいました。事業化です。大変だけれども、やっぱり続けていきたい。この産業を続けていきたいという方たちが、例えば畜産をやっている方も、同じく農業をやっている方も、農家民宿を始められていました。それから、長年の夢であったワイナリーを始めておられる方もおられたり、私は太陽光パネルを市民共同設置という形で事業を始めました。

皆さん自分でお金を生み出す事業化が必要だということをおっしゃっています。それには、行政をまず当てにしないで、始めるということが大事なんじゃないかと言っています。行政のお金とか支援だけを当てにして始めてしまったのでは、いろんな難しい点が出てくると。そうではなくて、まず自分で始めてみよう。自分の力で始められるだけの規模で始めてみよう。その時になぜか思いが強ければ必要な人や物や情報はどこかからやって来てくれるというお話もありました。私もたくさんそう言った事を経験しました。ですので、そうやって事業化をして、自分でできることから始める、そしてお金を生み出すことが、持続可能な産業を生み出していく可能性を含んでいるのではないかと思います。

今まで長野県が支払ってきた化石燃料は、年間、まあざっくりとした計算ですが、400億円ほどの化石燃料代を支払ってきたと、計算上では出されています。それは全部県外に流れて行っているお金なんですね。もしそれを自然エネルギーを増やせば、増やしただけお金が県の中に残ります。そういう可能性が高いと思います。そういった県の中に事業が増えることで、地域にお金が回る。それが地域の経済が豊かになっていくことにつながるかなという、やっぱり事業化だねという話をいたしました。

また、お金の使い方ですが、長野県の森林税のようにみんなが喜んで、この目的ならばお金を出したいよと。こういうふうに活かされているのが見えますねというお金ならばみんなが喜んで出すと。そうした生きたお金の使い方を県をあげて、県のみんなで力を合わせて工夫してやっていければいいなという話も出ました。

豊かさというのは、物価だけではなく、食べ物の豊かさも大きいと思います。長野県では私はあまりりんごを買いません。朝起きると、ピンポンって、「りんご余っているんだけどいらない。」とたくさんりんごをいただきます。季節にはきゅうりもいっぱい届くし、なすを断ることもあります。そういった本当に食べ物の豊かな長野県でキーワードとして「年収200万で暮らせる豊かな長野県」。もうでもそんなに遠くない時期に実現するかもしれませんが、20年先というよりも、今私たちができることという感じでお話が進みました。

4 知事あいさつ

【長野県知事 阿部守一】

皆さん大変熱心な話し合いと発表をありがとうございました。予定の時間を10分超過していますが、私は何分ぐらい話させていただけますかね。早くやめろという人が多ければ早くやめますし、今聞いて、知事としてどう思っているんだということを言えというならば、ちょっと言わせていただきますけれども、どっちがいいですかね。言った方がいいですか。じゃあ、予定の時間をオーバーしている中での発言で申し訳ないですが、今皆さんのお話を聞いて、私の考え方を少しお話をしたいと思います。

まず、一番最後にお話があった年収200万円で暮らせる長野県は、私は、湯浅誠さんと湯浅さんがまだ内閣府参与で、私も行政刷新会議にいたときにそういう話をしたことがあって、長野県なんかまさにそういう暮らしをやるのにはぴったりの地域だと、日本全体がひところ目指していた方向性というのは、何となく東京だとか横浜だとか大阪だとか都市に暮らす暮らし方みたいなのが、さっきの方の話で言う「格好いい暮らし」。前々そうじゃないのではないかと私は思っていて、東京とか大阪とか横浜、それはきらびやかですけれども、お金を持っていけば楽しいところはいっぱいありますよ。でも、お金がないとこんなに暮らしづらいところはないかと私は正直思っています。私は横浜市で副市長をやっている、横浜は日本で一番人口が多い市です。みなとみらいの周辺とか見ると発展している都市だなと、いい都市でもあるんだけれども一皮めくると、長野県は長野県で課題がありますけれども、長野県と違った課題がいっぱいありますよね。例えば、横浜だって今高齢化しているんですよ。長野県も高齢化していますけれども、長野県の高齢化のピークはほとんどもう絶対数は伸びないです。多少これからしばらく伸びますけれども、そんなに目をむくほど増えては行かないです。大都市周辺はこれからが勝負ですよ。我々長野県がこれまで取り組んできた、後継者がいないし人口も減っちゃってお年寄りばかりになっちゃったじゃないかというのを、日本全体人口減少ですからこれから大都市は経験していかなければいけないわけで、長野県と違う事情の大きなところは人のつながりが極めて希薄ですよ。隣に住んでいる人は誰だか分からないという街が山ほどありますから、そういうところでさっきから出てきたつながりとか支え合いというのは重要なキーワードだと思っていますが、長野県でもつながりとか支え合いというのを言わなければいけない状況であるので、そこはしっかりと立て直さなければいけないと思いますけれども、都会は正直言って、どうしようもないという状況です。そういう意味では暮らし方、年収200万の話で湯浅誠さんのことを思い出したので、そういう発言を今していますけれども、お金中心の暮らし方ではない暮らし、そして今まで都会化することが何となく社会の進むべき方向性のような錯覚に陥っていたところがあると思いますけれども、そうじゃない暮らし方というのを長野県から是非新しいビジョンをしっかりと出して、取り組んでいかなければいけないと思っています。

皆さんの発表の中で知事として申し上げたいのは、私が気になる発言が何回か出てきたのですけれども、「これは県にお願いします。」とか、「行政にやってもらいたい。」、最後は「やらないでほしい。」という話もありましたけれども、私はいろいろなところでタウンミーティングをやらさせていただいて、今日は言わなかったですけれども、いつも言っているのは、あっち側こっち側はやめましょうと言うことをお話しさせていただいています。知事だとか県の行政だとかができることは限られています。オールマイティじゃない。私は責任放棄するつもりもないし、自分の職務は責任を持ってやり遂げていかなければいけないと思っていますけれども、例えば今日もある商店街の皆さんとお話したのですけれども、そこでも出ていたのですが、行政になんか頼ったって、どっちにしろ良い答えなんか出ないというふうにある方が言ってくれて、私は全くそのとおりって言いました。私はいろんな人とお話をすると、県に要望をされることが多いです。いろいろああしてこうしてこうしてああした後に、ここだけ県がどうにかしてくれという要請は、私は非常に積極的にやらなければいけないなと思いますけれども、これが大変なんだけど県が何とかしてくれるかなみたいなことは、私は正直言ってちょっと困るなと思っています。そんな打ち出の小槌みたいなものがあるんだったら、誰も苦労しないわけで、今回の中期計画は県として策定する計画ですけれども、県だけでできないことが山ほどあります。もちろん県がやらなきゃいけないこともいっぱいあります。それは県

がここをやるし、県民はここを頑張ってもらおうというように是非一緒になって実現を目指す計画にさせていただきたいなと思っています。

あと、少しキーワード的な話が少し出てきたので申し上げますと、つながりとか絆って私は非常に重要なキーワードだと思っています。これは人と人とのつながりの話だけではなくて、産業と産業。さっきも出ていましたが観光と農業を結びつけるだとか、例えばスポーツと観光を結びつけるだとか、健康と農業だとかですね。実は行政が縦割り、霞ヶ関が縦割りで県の行政も縦割りなんで、何となく住民の皆さんも縦割りになってしまうのではないかなと、皆さんも是非縦割りをやめてくださいというのをこの機会にお願いをしておきたいと思います。というのは、要請とか陳情を私のところに来てもらうことが多いですけども、例えば教育も学校の先生方が来たかと思えば、保護者の人たちが来て、NPOの人たちが来て、みんな違うことを言うんですよ。これはおかしいと思います。行政が縦割りなのは予算の配分とで仕方ないというところもあって、でも行政の縦割りは極力なくなさないといけないと思いますけれども、住民とか県民も実は縦割的に行動しているところがあり過ぎはしないかというのを2年弱知事をやっていて強く感じています。むしろそれぞれの人たち同士がもっとどうしようかと、うちのNPOはこんなことに困っているんだけど学校の先生方はどう思っているのとか、あるいは行政も巻き込んでもらってもいいので、ところで児童相談所ではいったいどう考えているのというのを、さっきどなたかおっしゃっていましたがけれども、互いを批判したり互いのマイナスのところだけやるのではなくて、その悩みだったらうちのNPOでできるとか、その悩みだったらうちの会社でできるとか、その悩みは行政ができるとか、プラス思考の横のつながりを作っていただきたいし、私はそういう観点で県政自体を組み立てなきゃいけないし、新しい計画も県民のみんなの力で実現する目標設定というのを是非やっていきたいなと思っています。

それから、お金の話があって、さっき自然エネルギーの話で出てきましたけれども、補助金くださいとか、補助金が必要だというのはもちろん言われることが多くて、私の責任において頑張れるところは頑張りますけれども、皆さんの税金ですから、私が稼いでいる私のヘソクリではないんですよ。みんながこっちも補助金あっちも補助金ということであれば、とてもじゃないけど県政が回らないです。行政全体が回らないと思っています。お金のあり方というのをこの際やっぱ我々一人ひとりがもっと考えなければいけないのではないかなと思います。一つは地域でお金が回る仕組みをもっと真剣に考えなければいけないだろうと思っています。私は、その一つが自然エネルギーの話だと思っています。さっきおっしゃっていただいたので重複は避けさせていただきますけれども、長野県は自然エネルギーの宝庫です。この東信地域も非常に日照時間が長い地域でありますし、県内にそういう地域が多いです。それだけじゃなくて長野県は水が豊富ですよ。私は昔、四国で仕事をしていましたけれども、未だに夏は渇水になりますよ、日照りが続けば。長野県は水があってしかも山が多いですよ。山坂が多くて大変だと思っているだけじゃなくて、坂があるから水が流れるとエネルギーになるのであって、小水力発電の適地も非常に多いのが長野県です。ちょっと見渡せば山や森がいっぱいありますよね。バイオマスエネルギーの宝庫です。昔は薪とか、たきぎとかで、これがエネルギー源だったわけですよ。ところが化石燃料の時代になって、我々は一生懸命稼いでも、エネルギーを買うのにみんな県外・国外にお金が出て行っちゃうから、何となく一生懸命頑張っているのにどっかにお金がいっちゃうなという部分が結構あるわけで、是非この身近な資源を皆さんの力で掘り起こして使っていただきたい。エネルギーだけじゃなくて水だっていろんな使い方があると思いますし、

長野県はいろんな資源が豊富にある割には使いこなせていないと私は思っていますので、是非一緒に地域の宝とか資源をもう一回掘り出してどうやって磨くのか、どうやって使うのか、そういうことを一緒に考えていただきたいと思っています。

あと、皆さんのお話の中で税金の話をしると、私は消費税は避けられないと思っています。ただ、今、社会保障の全体ビジョンが出てこない中で、増税の話ばかり一生懸命進んでしまうことには違和感を持っています。消費税10パーセントというのは、地方消費税と国税としての消費税と両方入っているんですが、こういうことはメディアはほとんど報道しないし伝えていないですけども、実は地方税としての地方消費税も含まれています。これからそれをどこまで県が自由に使えるのかというのはまだ分からないので、これから国にちゃんとそういうことは問い合わせていかないといけないと思いますけれども、皆さんに是非私と意見を共有してもらいたいと思うのは、地方分権を是非皆さんと一緒に進めさせていただきたいと思っています。地方分権とはなんか国と県とが権限のぶん取り合いをしているように論じられがちですけども、私は身近なところで身近な意志決定をできるのが地方分権だと思っています。先ほど健康長寿の中で国も県ももっとはっきりしろという話がありましたが、私も全くそのとおりだと思いますし、私自身も謙虚に受けなければいけないところがあると思います。ただ、今の社会保障の基本的な制度・仕組み、介護保険がどういう仕組みか医療保険がどういう仕組みか全部国が決めて、執行だけ県と市町村がやっているというのが今の現実の姿です。これは、オールジャパン統一のなところは国の制度・仕組みでいいと思いますけれども、きめ細かなところ、日常の家事サービスと介護保険ともっと一体でやれるようにした方がいいんじゃないとか、そんなものを何時間分はこっちで何時間分はこっちでみたいなものまで国が決めるのは、私はおかしいと思っています。もっと県とか市町村できめ細かなルール作りができれば、たぶん多くの皆さんが不満に思っていることは解消するはずですが、ただ、分権の話というのは皆さんから見ると分かりづらい話で、これは我々の責任でもありますけれども、今までは地方自治体よりも国の方が信頼感があったので、分権するよりは国が全国統一で、山梨県に住んでいても長野県に住んでいても同じルールの方がもしかしたらいいのではないかという錯覚だと思っていますけれども、そのように思っている方が非常に多いです。なおかつ、知事の私が言い過ぎるのはいけないかもしれませんが、全国的ないろんな団体には国の役所と仲良くしているところが多くて、これは分権しないで国のルールの方がいいですよと私のところにも言ってくる方たちが非常に多いですが、私はすごく違和感を持つことが多いですね。もちろん国がやった方がいい場合もありますけれども、是非皆さん一つ一つ自分に身近なところは誰が意志決定しているのかと、野田総理が決められているのか、知事が決められているのか、地元の市町村長が決められているのか、難しいところ見切れないところは多いと思いますけれども、時々問題があったときは是非そこは誰なんだと考えてもらって、もしそれが国でおかしいと思えば地方分権にしてください。考えたけれども誰が責任を持っているのか分からないという話は、これは責任を明確にしろよという声を是非上げていただきたいなと思っています。

教育の話がずっと出ていました。教育が大事、教育が大事、教育が大事、教育が大事ってずっと皆さん教育の話をされていました。教員の不祥事が相次ぐ中で教育再生待ったなしだと思っています。一番問題だなと思っているのは教育の責任者って誰だというのが非常に分かりづらい。私がこんなことを言ったらいけないのかもしれないですけど、本当に分かりづらいと思いませんか。誰に皆さん教育の問題をぶつけていますか。野田総理に言ったって、たぶん俺

じゃないと言うと思いますよ。地元の市町村長に言ったって半分俺かもしれないけれども、でも全部は俺じゃないなど。私もそうですよね。教育委員会に言っても、教育委員会は責任があるけれども予算は知事がつけるんだって必ず言いますから、そうするといったい誰が責任持っているんだと、たらい回しの構造。しかもこれに学校現場の先生とか学校長とか入ってくるとさらに分かりにくくなっているのが教育だと私は思っています。今回残念な事件が相次いだことを契機に長野県の教育のあり方というのは抜本的に考えて行かなければいけないなと思っています。それで、抜本的に考える責任者が私ならばそれはまだ話は簡単なのですけれども、私だけではないところが実は問題で、もっと農業体験をとかいろんな話がありましたけれども、学習指導要領を作っているのは、幸か不幸か、不幸だと私は思っていますけれども文部科学省が作っています。そこにどこまで独自性を入れられるかということのをこれから考えて行かなければいけないと思いますし、いろんな子どもたちとか保護者の悩み事を聞くのにも、さっき言ったような責任の曖昧さが非常に問題を生じさせている原因だと思っています。そのところはさっきのお金の話と同様に誰が責任を持つのか、誰が権限を持っているのかということのを是非皆さんそれぞれの機会を捉えてよく考えてもらって、これはおかしいなど、それは私に対しておかしいと言ってもらえることもいっぱいあると思いますけれども、これはおかしいなと思ったらやっぱり責任のありかが不明確ではないかということで、県民の皆様からも問題提起をしていただきたいと思っていますので、これはお願いでございます。

それから、ずっとタウンミーティングをやってきていますけれども、みんな長野県はいいところだと思っています。いいものがいっぱいあると思っています。そこはほぼ共通しているなと私は思っています。自然の豊かさだとか環境だとか、人の助け合いとかですね。だけどやっぱりその良さをもっと磨きをかけていかなければいけないのではないかと、その発信が十分しきれていないのではないかとということが、大勢の皆さんの意見を聞いてきて、共通している課題ではないかなと私は感じています。さっき子どもの話にもありましたけれども、実は良さに必ずしも全ての人たちが気が付いていなかったり、あるいは良さを良さと思っていないというところもあるんですよ。こうやってつくづく話すと、どうも当たり前だと思っていたけれども実は良いことじゃないかと気づくことが多いのですけれども、何となく当たり前になってしまっていると、改めて良さに気がついてないと言うところに、実は長野県の大きな課題があるのではないかと私は思っています。

今日は、こういう形で県が主催でタウンミーティングをやっていますけれども、これは別に県がやらなくたっていい話で、さっきあっち側こっち側をやめましょうというように申し上げたように地域を良くするとか長野県を良くするとか、こんなの県だけの仕事じゃないです正直言って。県民の皆さんがこういう県にしようとか、俺たちの地域は是非こういうふうにしてくれと言う盛り上がりがなく、県だけが旗を振ったってそれは多分だめです。それは盛り上げようと私は旗を振るように努力します。是非それは皆さんも一緒にやっていただきたいと思っていますし、県が不十分であっても、あるいは市町村が不十分であってもそれぞれの地域で同じような話し合いの機会を作ってくださいと、今日は県全体でいろんな話をさせていただいていますけれども、やっぱり自分たちの地域にはこんないいものがあったんじゃないかと、俺たちももっとこういう協力ができるんじゃないかと、新たな気付きが必ず、必ずこの長野県のそれぞれの地域には埋もれている財産が絶対いっぱいあると思っていますので、必ずそういう気付きが得られると思いますので、是非そういう取組をこの機会にそれぞれの地域でも行っていただくと私は大変ありがたいなと思っています。

健康・長寿、産業、それから暮らし方・ライフスタイルという3つテーマで

お話をいただいたわけですが、テーマに分けても大体同じ話に収れんしてくるなと思います。

私は、まずは教育再生をしっかりとやっていかなければいけないと思っています。そして健康・長寿の長野県というのもさっきの人と人との支え合いのもっとも基本的な部分でありますし、私はどんな人にも居場所と出番のある社会を長野県で作りたいと言うことをずっと言っていますので、これは国の制度にかかわらず、県にできることからしっかりとそういう社会を目指して取り組んでいきたいと思っています。

本日は予定の時間を30分もオーバーして長時間にわたりまして、このタウンミーティングにご参加いただきまして、大変ありがとうございました。これから県として中期計画の策定が本番になってきます。私は県民の皆さんと一緒に作って一緒に実現する。行政の計画は作るときは一生懸命だけど、あとは知らない計画が多いですよ。今の長野県の中期計画って何が書いてあるか知らない人がほとんどじゃないかと思っています。それは私の責任もあるかもしれませんが、ただやっぱりこれからの長野県をこういう県にしたいねっていうものを県民の皆さんと共有できていなければ、いくら一生懸命それぞれの部署部署の人間が頑張っても実現しないと私は思います。是非今度の中期計画は県民の皆さんと一緒に旗を掲げて一緒に実現する計画にしていきたいと思っています。今日は策定途中でこういう話をしましたが、完成したらまた県民の皆さんにこういう内容ですよ、県はこういうことをやっていきますよと、でも県民の皆さんにもこういうことを協力してもらえませんか、そういう機会を是非作っていきななと思っていますので、そういう意味で県政それから中期計画にこれからもご支援とご協力をいただくことをお願いして、大変長くなりましたけれども、私の皆様への感謝のあいさつとさせていただきます。

本日はありがとうございました。